

1 学年 SS 基幹探究グループ研究 報告

◇期 日 令和3年2月1日（月）～15日（月）の月・木・金曜日

◇場 所 本校 教室・化学実験室・生物実験室・図書館・探究講義室

1 学年探究科学科生徒 80 名は、1 年次の SS 基幹探究の総括と 2 年次に始まる SS 発展探究に向けて、16 人ずつ 5 教科に分かれて 6 時間のグループ研究に取り組んだ。この研究は、入学当初から SS 基幹探究の探究基礎Ⅰ・Ⅱで培った「読み解く力」や「探究モジュール」の成果を発揮する場として、与えられた課題を少人数で追究し、発展探究につながる力を一層伸ばすことを目的としている。生徒は数学、理科（化学・生物）、英語、国語、地歴から、これまでの活動を通してさらに追究したいと思う教科を 1 つ選び、それぞれの課題をグループで探究し、その成果を発表した。

数学では、探究基礎Ⅰ・Ⅱで研究した課題をさらに追究する班と、新たな研究を始める班に分かれて活動した。新たな研究では、数学の素朴な面白さに焦点を置いた課題を生徒自身で設定した。比較的自由に課題を設定できたため、研究対象の発見に苦労したが、それゆえ課題発見力の向上につながった。

理科では、化学班と生物班に分かれて活動して成果を発表し合った。化学班では、探究基礎Ⅱで使用した薬品を使って銅を溶かす実験をした。化学をまだ習っていないこともあって、計算や対照実験にてこずったが、安全に留意して活動できた。生物班では、今年度中止になってしまった能登臨海実習の代替として、能登の珍しい生物を使って本校で実験を行った。気になる生物を 1 つ選び、その生物の習性を観察し、統計を取って調査した。ある程度結果を予想し、それ相応の実験計画・手順を考える計画性の大切さを実感した。



理科の発表会の様子

英語では、プレゼンテーションソフトを使って、自分の好きなものについて英語でプレゼンテーションをした。発表にあたり、内容を吟味、推敲し、スライド画面を伝わりやすいように工夫して表現した。研究を通して、説得力のある情報を見極めて収集する能力や、自己発信力が身についた。

国語では、グループに分かれて 4 つの課題に取り組んだ。課題は現代文と古典を主としているが、理系志望者が多いこともあり、理科との融合課題も設けられた。それぞれテーマについて作品を比較して共通点と相違点について吟味したり、作者の経歴や当時の社会情勢から作品の魅力の原点を見出したりした。

地歴では、文通、苗字、国政、世界情勢など興味のあることについて、2 年次からの発展探究と同じように生徒自身で課題を設定し、研究した。3 時間かけて研究し、教科内でポスターセッションを行った。研究を進めていくうちに、設定した課題からそれてしまうこともあり、改めて適切な課題を設定する大切さや、発表を聞いてもらうための集客の大切さを学んだ。

短期間の研究だったが、これらの活動を通して、これまで養ってきた探究力を実践に活かし、応用する力が培われた。また、1 つの課題について、グループで意見交換しながら突き詰めていく面白さも感じられた。これらの力を 2 年次からの発展探究に生かし、さらに高度で飛躍的な研究をしていきたいと思う。